

パフォーマンスハイライト

2017年3月期 業績のポイント

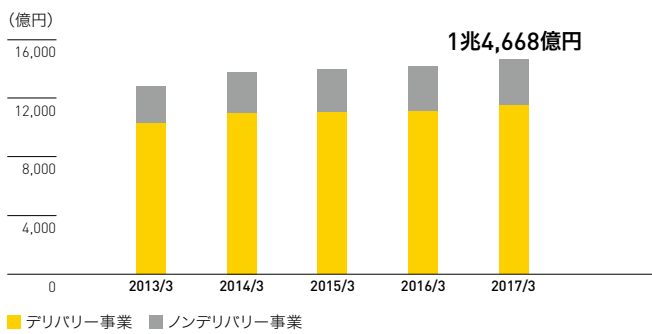
営業収益は、デリバリー事業において、通販市場の成長に加え、フリマサイト経由の取扱いを中心に「宅急便コンパクト」、「ネコポス」が伸長したことなどにより宅急便の取扱個数が拡大したほか、ノンデリバリー事業において、主に既存サービスが堅調に推移したことにより、前期比3.6%増の1兆4,668億円となりました。

営業利益は、労働需給が逼迫する中、業務量増加に対応した

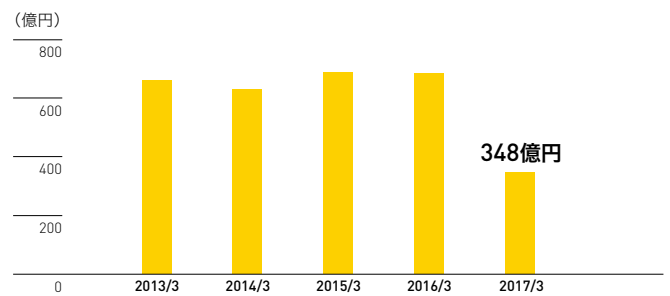
戦力を確保するためのコストが嵩んだことや、新たに認識した労働時間に対する一時金を計上したことなどにより、前期比49.1減の348億円となりました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比54.2%減の180億円、ROEは、前期比3.7ポイント低下し、3.4%となりました。

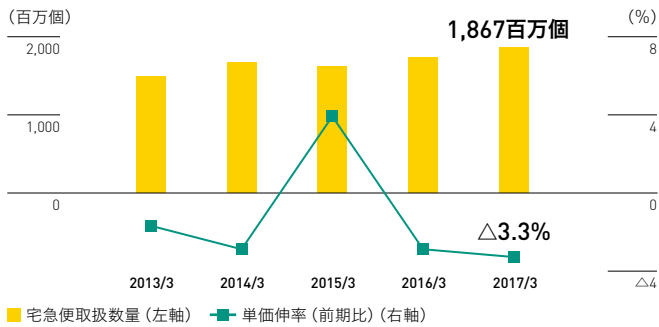
営業収益



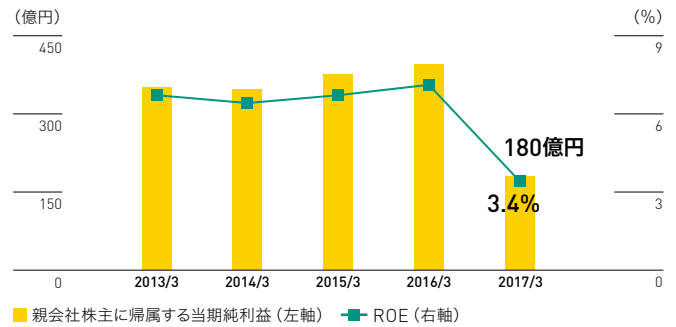
営業利益



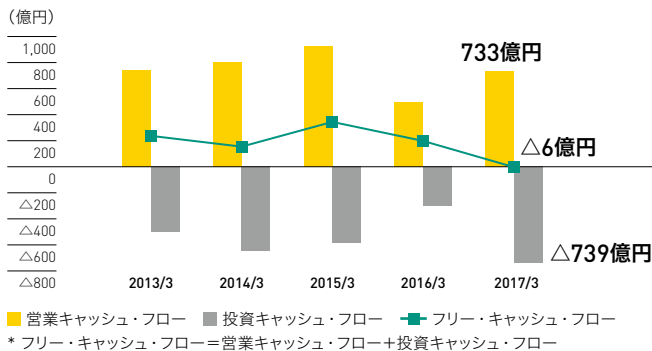
宅急便取扱数量／単価伸率 (前期比)



親会社株主に帰属する当期純利益／ROE



営業キャッシュ・フロー／投資キャッシュ・フロー／フリー・キャッシュ・フロー*



自己資本／自己資本比率

